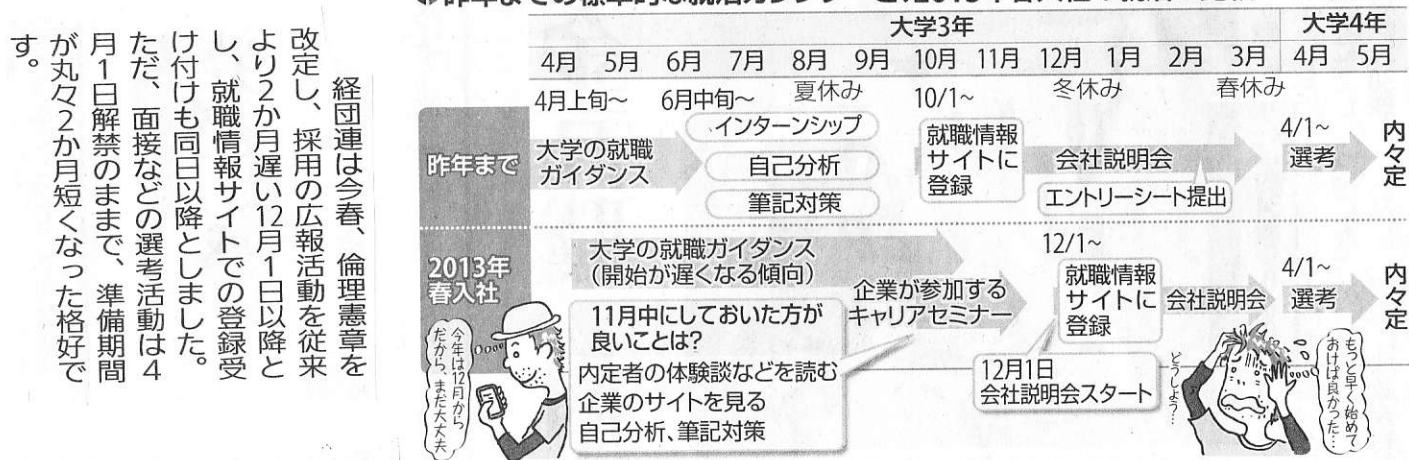


準備で差が出る短期決戦

◆ 昨年までの標準的な就活カレンダーと、2013年春入社の就活の比較



例年より2か月遅く * 外資系狙う学生 早い動き

絞り込み

外資系など、経団連の非会員で例年通りに会社説明会を始めた企業もあります。楽天みんなの就職事業の矢下茂雄事業長は「今年は外資系などを狙って早くから就活を始める学生との間に大きな差が出る」と予想し、「12月1日のタイミングを逃すと致命的。それまでにエントリーしたい会社をある程度絞っておくべきだ」と指摘します。

そのためにまず、①大学の就職部・キャリアセンターに行く②就職情報サイトで内定者の体験談を見る③興味のある企業のサイトを見る——ことです。「簡単なことからいい。就活モードに入り、行動することが大事」と矢下さんは言います。

自己分析

意識を高めたら、自己分析に取り組みましょう。就職コンサルタントの坂本章紀さんは「企業の広報開始後では、求める人材像に自分を当てはめようとして正確な自己分析ができない」と警告します。12月以降、会社説明会が重なり事前の選択を迫られる場面もありますが、自分を知り、優先順位付けができていれば判断しやすくなります。12月からは急に忙しくなります。OB訪問や筆記試験対策など、今からできることは他にもあります。後悔しないよう、早めに取り組みましょう。

採用担当者座談会

ES 面接

— 求められる人材とは？

柿木 自分で考え、答えを見つけて、周りの人を巻き込んで行動できる個性豊かな人です。コミュニケーション能力も重要ですが、話が上手ということではなく、自分の言葉で心をこめて自分を語り伝える力が大切だと思います。

溝上 主体性や粘り強さ、協調性など、社会人としての基礎が大事だと思います。ただ、いろんな個性を持った人に入社してほしいので、特定の人物像は掲げていません。

伊藤 会社にはいろんなタイプがいます。大事なのは、周囲とコミュニケーションを取りながら持ち味を発揮できるかどうか。学生の皆さんは、各企業が打ち出している求める人物像に無理に自分を合わせないでほしいと思います。

ESに浮かぶ人柄

— エントリーシート(ES)

は選考でどう扱われる？

溝上 適性検査と併せて、最初の選考に使います。面接でも活用しています。

柿木 最終面接まで使います。自分の言葉で書いたESが

らは、人柄、人物像が浮かび上がってきます。気持ちを込めて書いてください。

伊藤 ESのみで選抜はしません。やはり最後まで参考にします。実験を書いたものは読み物として楽しく、人物にも興味がわくものです。

面接で20年後見る

— 面接はどのように？

伊藤 年によって異なりますが、昨年度は4回実施しています。経験したことや強みを入社後にどう生かせるか、10年後、20年後にどんな活躍が期待できるかなど、多様な視点で見えています。

溝上 面接は企業と学生が対等の立場で、お互いを理解しあう場だと考えています。自分に合う会社かどうか、しっかり判断してもらつため、面接は6回程度じっくり時間をかけて行っています。

柿木 面接は企業のDNAと皆さんのDNAが合うか確認しあう場と考えており、4、5回実施し、3回目からは内面まで入った質問をしています。面接では飾らずに素の自分を見せてほしいと思います。

— 改めて、コミュニケーション能力とは？

溝上 表情や雰囲気などを含めたものが、コミュニケーションです。□が達者ということとイコールではありません。

伊藤 □べたでも誠実に話す人には、みんな耳を傾けます。重要なのは伝えたい思いを持ちきちゃんと表現すること。それができれば面接も心配はいらないでしょう。

— インターンシップ(就業体験)などは参加すべきか？

柿木 企業の生の姿を知る良い機会です。学生生活に支障をきたさないのなら、参加するとよいと思います。



コメンテーター 上原隆さん

「企業によって微妙に違います。能力だけでなく個性を見て判断するの

溝上 仕事の雰囲気を感じてみるし、それを機に学外の仲間をつくることもできます。有意義だと思います。

— 新聞は役立つ？

伊藤 入社1年目の社員に、業務に関連する記事のスクラップを任せています。私もやってみて、いろんな物の見方があることを知りました。貴重な媒体です。

溝上 新聞は大事です。ページをめくれば、仕事のヒントが向こうから飛び込んできます。情報収集の入り口として役立っています。

柿木 その時々で何が重要なのか、記事の扱いで分かります。自分なりの解釈を加え、頭の訓練のつもりで読み始めるということです。(関仁巳、森藤千恵)

「自分」を把握して

は同じ。自分がどんな人間なのか把握しましょう。ESは、体験が素直に表現され、具体的なイメージが伝わるもののがいいですね。面接で思いを伝えるには一定の練習が必要。最初は失敗してもいいので、まず友だちと話すところから始めましょう。新聞の文章は簡潔かつ的確。新聞に親しめば、限られた字数や時間で自己表現する力が磨かれると思います」